

登録日 2020/11/24

レジメン名 Pan006

腫瘍名 膵臓がん

申請医師 消化器外科

### 投与スケジュール

Nal-IRI+I-LV+5-FU				14日毎×PDまで	
				1コース	2コース
				1 2 3	15 ... (day)
① 生理食塩水 (ポート穿刺用)	20 mL	点滴	5分	↓	↓
② デキサート パロノセトロン 生理食塩水	9.9 mg 0.75 mg 50 mL	点滴	15分	↓	↓
③ オニバイド 5%ブドウ糖液	70 mg/m <sup>2</sup> 500 mL	点滴	90分	↓	↓
④ 生理食塩水 (フラッシュ用)	50 mL	点滴	5分	↓	↓
⑤ レボホリナート 5%ブドウ糖液	200 mg/m <sup>2</sup> 250 mL	点滴	120分	↓	↓
⑥ 5-FU 生理食塩水	2400 mg/m <sup>2</sup>	⑤終了後に 46時間かけて インフューザーを用いて		■	■
*フルオロウラシルの量にあわせて総量が変わります。					
⑦ 生食注シリンジ ポート内洗浄 患者持ち帰り用	10 mL	静注		↓	↓

### 注意事項

- ・原則、ゲムシタピン含有レジメンの治療歴があること
  - ・UGT1A1遺伝子多型の測定を実施する。  
ダブルヘテロ、ホモの場合は、オニバイドの開始用量を1回50mg/m<sup>2</sup>とする。  
忍容性が認められる場合は、増量が可能。  
(添付文書、適正使用ガイド参照)
  - ・オニバイドはルートにインラインフィルターを使用しない(リポソーム製剤のため粒子が詰まるため)
  - ・減量基準(項目に該当した場合、投与レベルを1レベル減量する)  
減量すべき条件は、DINETからオニバイドを検索し、添付文書や適正使用ガイドを参考とする。
- 下記に示した減量基準が、臨床試験で用いられた内容。減量条件に該当した場合、下記を参考とする。
- \* 減量 1段階⇒オニバイド: 50mg/m<sup>2</sup>(開始量が50mg/m<sup>2</sup>の時は、43mg/m<sup>2</sup>)、5-FU持続: 1800mg/m<sup>2</sup>
  - 2段階⇒オニバイド: 43mg/m<sup>2</sup>(開始量が50mg/m<sup>2</sup>の時は、35mg/m<sup>2</sup>)、5-FU持続: 1350mg/m<sup>2</sup>
  - 3段階⇒オニバイド: 中止、5-FU持続: 中止

### 参考文献

- 1). Lancet, 387, 545-557 (2016).
- 2). オニバイド適正使用ガイド, 2020年6月作成
- 3) NCCN Guideline Ver 1.2020
- 4) 日本膵癌学会、診療ガイドライン改訂版